

# 国公立大学入試コース

学力確認

単元別強化

センター試験対

二次試験対策

## ◎ 年間スケジュール

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
行事	トライ模試	夏講習 トライマーク模試	トライ模試	トライマーク模試	トライ模試	トライマーク模試	センター試験	前期二次試験	後期二次試験	
トライ対策スケジュール	トライの夏特訓		単元別対策			冬特訓 センター直前対策		二次試験直前対策		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状学力の確認 ⇒5教科の単元別詳細まで</li> <li>・学習習慣の改善 ⇒学習の意識・習慣改革</li> <li>・苦手単元 ⇒夏休み中に苦手は克服</li> </ul>		学校の進度・定期テスト並行し、出題傾向を踏まえ、合格に向けた勉強を進めます。  また、私立大学受験も考えた指導を行います。			<b>【直前対策】</b> まだ過去問で、合格基準点に持って行く為に、必要時間を割り出し指導します。		私立大学受験との兼ね合いも考え、指導にあたります。		
ポイント	基礎学力の確認・苦手克服を行います。また、普段あまり手を付けていない、社会・理科科目についても、しっかり時間を取ります。		また自分の学習パターンが変わります。ペースを乱さないように、勉強時間を確保していただきます。偏差値よりも、センター過去問での得点力を気にしながら、得点力を上げていきます。			センター試験過去問にて、超難関国公立であれば、9割。難関国公立であれば、8割。中堅国公立であれば、7割の得点力が目安となります。(上記はおおよその目安です。ご本人の志望校別に詳細の必要得点を割り出します)		センターの結果次第で、受験校を最終決定します。受験する私立大学の過去問も進めます。		私立受験の結果に一喜一憂する事無く、2次対策。前期試験で決める為に追い込みです。前期がダメだった場合は諦める事なく、人生をかけて最終追い込みをします。4月からは大学生に。
						理科・社会科目対策				
						過去問で、目標点数を確実に取れるまで徹底。				

## ◎ こういう生徒にお勧め!

- ・国公立を狙いたいが、現状では、判定がD・E
- ・教科、科目を絞って対策を取りたい
- ・センター試験対策について不安がある

## ◎ 対象大学

全ての国公立大学可能です!

## ◎ 指導の進め方

志望校について、  
 ①ご本人の現状学力  
 ②受験の科目・配点  
 ①②を分析の上、合格の為に必要な指導時間を割り出し、具体的な目標を持って指導を行います。  
 また、1月のセンター試験での実際の点数を元に、二次試験の必要点数を割り出し、最後の追い込みをかけます。

## ◎国公立大学入試コース センター対策ポイント

国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語の力と得点は相関しない。記述問題は全く出来ないのに正解を探し出すマーク問題なら学習の進め方次第で解けるようになる。「どうせ…」と諦めていても始まらない。</li> <li>しかし、勉強を始めると教科に費やした時間とともに、正比例のように成績が伸びることはない。国語では、ある時を境に急に得点が伸びる。そして、一度その要領を得ると受験まで学力は落ちることはない。</li> <li>その為には、その時が来ることを信じて努力するしか方法はない。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史は「流れ」を把握することが大事。教科書を読み込み、おおまかな流れを掴む。そして、サブノートにまとめながら、細かいことから肉付けしていく。</li> <li>・地理は統計表・グラフ・地図などを利用した統計資料問題が中心になり、統計資料問題では、地理的知識を基礎にして資料読解力を用いて解く「地理的な考え方」が要求されるが、最低限の基礎知識を身につけておくことが必要。</li> <li>・教科書(もしくは解説の詳しい参考書)をベースに、サブノートなどを併用して基本的知識を身につけ、問題集で問題演習を行う。時事対策も欠かせない。</li> </ul>
数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の章末問題レベルだが、時間の割に量が多く、数学が得意な人でも失敗することもある。</li> <li>・素早く方針を定め、正確に計算する力、マークシート問題に慣れておくこと(誘導を読み取る力、図をかくて答えを予測する力、穴の形から答えを予測する力など)が重要。</li> <li>時間の余裕があまりない上にやや難しめの出題が続いているので、実戦的演習で処理力を鍛えておきたい。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物理は、教科書や参考書を読んだだけでは問題が解けるようにはならないので、とにかく問題演習に取り組みたい。</li> <li>・生物は、センター試験では知識問題が約5割、考察問題が約5割。個別試験は大学によって異なるものの、多くの大学では知識問題も考察問題も適度に得点して初めて合格点に達する。</li> <li>・地学は、勉強時間について、センター試験は「知識問題」重視なので、できるだけ毎日勉強するようすすめる。10分や15分でもよいので、毎日地学の勉強をするように。</li> <li>・化学は、基礎力が不十分だと応用力は養えないので、焦らずに、まずは基礎力を確実に養成したい。</li> </ul>
英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・80分で計2,000語以上を読み、50を超える問題に解答しなくてはならないので、速読速解力の養成のために、標準的なレベルの英文を数多く読んでおきたい。</li> <li>・文法・語法の知識はすべての基本なので、問題集を利用して早めの対策を心がける事。</li> <li>・発音・アクセント関連の問題は、問題集を利用する他に、日頃の学習の中でも発音・アクセントを意識する習慣をつけておくことよい。特に、日本語と英語で発音・アクセントの異なるものは注意して学習すること。</li> </ul>